

様式 16 情勢報告（各月の動き毎月 25 日までに報告）  
情勢報告（平成 25 年 12 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A 土佐くろしおニラ部会出荷始め総会



J A 土佐くろしおニラ部会出荷始め総会が 11 月 22 日に開催され、27 名の生産者が参加しました。

振興センターからは、有望品種「ハイパーグリーンベルト」が慣行品種に比べて伸長性に優れた特性を示している現時点までの生育調査結果を報告しました。本品種については現地検討会でも検討しており、生産者からは「冬期の低温伸長性や病害の発生状況などを栽培終了まで確認しないと特性は分からない。」という意見がありました。

J A 四万十ニラ部会大野見支部会



J A 四万十ニラ部会大野見支部会が 12 月 6 日に中土佐町大野見で開催され、3 名の生産者が参加しました。

振興センターからは、ハウスの保温や換気管理、白斑葉枯病防除など今後の栽培管理について説明しました。

参加者は、換気方法・通路へのモミガラ敷設など病害防除のための湿度低下対策や保温資材の活用など現地ハウスの事例を参考としていました。

津野山地区のユズを出荷



津野山地区のユズの出荷が 11 月 11 日から始まり、11 月 29 日に終了しました。出荷量は 29.7t（前年対比 158%）でした。

J A と振興センターは、出荷に先駆けて目慣らし会を実施し、出荷規格等を説明し受け込みにあたりました。

新植した 5 年生樹からの収穫が今年から始まり、出荷量は今後も更に増えると考えられます。

振興センターは、契約先の JA 馬路村に信頼される産地にしていくために技術指導等を行っていきます。

J A 土佐くろしおニラ部会現地検討会



J A 土佐くろしおニラ部会現地検討会が 12 月 18 日に須崎市と中土佐町の 2ヶ所で開催され、17 名の生産者が参加しました。

振興センターからは、厳寒期の栽培管理についてハウスの保温と換気の注意点や、今後発生が予想される白斑葉枯病対策などを説明しました。

試験品種「ハイパーグリーンベルト」を見た生産者からは、慣行品種の「スーパーグリーンベルト」より 12 月になっても草丈が長い生育状況から、葉が伸びやすい品種という感想が聞かれました。

生産者は、篤農家のほ場管理を参考にして、実証経過について意見を交わしていました。

## JA土佐くろしおイチゴ研究会出荷始め総会



JA土佐くろしおイチゴ研究会出荷始め総会が12月18日に開催され、12名の生産者が参加しました。

振興センターは、「有望天敵アカメガシワクダアザミウマによるアザミウマ類防除」の実証結果や、アザミウマ類の新規登録薬剤の防除効果について報告しました。

春は収穫作業が忙しくアザミウマ類防除が徹底できないことから、生産者は天敵に対して高い関心を示しました。

## JA土佐くろしおミョウガ部会現地検討会



12月2日～12日にかけて、JA土佐くろしおミョウガ部会の現地検討会が管内4箇所で開催され、延べ96名の生産者が参加しました。

振興センターからは、重油使用量を節約して経費を削減することや、ハウス内環境を適切に制御すること等で収量を伸ばすために、どういった管理を目指せばよいのか情報提供を行いました。

現地検討会では、実際のハウス内の温湿度データを配布し、これをもとに生産者同士でも天窗の管理方法などについて意見が交わされました。